

令和三年度 一般入学試験問題

国語

◎ 指示があるまで開かないこと

北海道社会事業協会 帯広看護専門学校

問題一 次の文章を読んで、設問に答えよ。

世の中には「数(かず)」でなく「数字(すうじ)」という言葉を使う人が多い。では、その「数字」という言葉を日常会話のなかで使うときに、みんなはどんなことをイメージしているのだろうか。

たとえば、会社の中では、「この数字を見ろー」とか、「こんな数字じゃ、話にならんっー」という話し声が聞こえてくることもあるだろう。そういうことを言う人は、どんなことをイメージしているか。「数字」は「ウソをつかないもの」「真実を伝えるもの」「客観的なもの」とイメージしているのである。

では一方、そういうことを言われた人は、どんなことをイメージするか。「数字は冷たい」とイメージするのである。まだある。「人間味がない」A「だ」である。イメージだけで物を言うなど叱る人がいるが、本当はそういうイメージこそが、数をキライにする決定的な要因になるのである。

こうして子供から大人まで、それぞれの段階に応じた、^(a)数をめぐる苦い体験が必ずある。そういう体験が積み重なって、①じょじょに数がキライになっていく。そして、ついには、「もう数なんか見たくもない。数のことなんかで頭を使いたくないっー!」と思うようになるのである。

しかし、そう思いたくなるのも、無理からぬことではある。B数は、人間が^(b)生み出した最高の抽象物だからである。そういうものを扱うのは、最高にくたびれるのである。

数を扱うときには、頭の中の回路を動かして、頭に負荷をかけることになる。最近、「百マス計算」というものが流行している。あれはまさに頭の中の思考エンジンを動かして、頭に適度な負荷をかけるという動作である。適度の負荷が脳を活性化するのである。しかし、適度なうちはまだよいが、頭に負荷をかけるという動作は、人間の活動としては本来、相当にくたびれることなのである。

ここで、「くたびれる」というのは、②無精だとか、怠惰だとかいう意味ではない。エネルギー消費が大きいということである。(中略)数を扱うという動作には、「作る」という動作が深く関わっている。そして、その「作る」という動作は、非常にエネルギーを消費するのである。

なぜか。「作る」という動作を行なうときには、頭の中の全部が動くからである。まず、「仮にこうだ」という仮説を立てて、とにかくそれを実行してみる。そして、その結果が、⁽¹⁾自分の実現しようとしたものと合致するかどうかを検証する。これだけの動きを一度に行なうことになるから、頭の中の全部が③いっせいに動くのである。

すると、脳のエネルギー源であるブドウ糖をどんどん消費することになる。その一方で、乳酸がどんどんできて、頭の中に蓄積されていく。C頭がくたびれるのである。読者のみなさんも、頭の芯から疲れたという経験があるだろう。それは、^(c)体が疲れるということとは違った、もっと深くくたびれ方だったはずである。

「数なんて見るのもイヤ!」と言う人は、「くたびれる」ということ④辛さを何度も何度も味わってきた人である。だから、その「くたびれる」ということを、なるべくなら回避したいのである。

学校でも会社でも、「計算は速く正確にやれ」⑤げんみつな答えを出せ」とばかり言われる。そうして、みんな頭がくたびれて、いつしか数がキライになっていく。「それはあまりにモッタナイことだ」と筆者は思うのである。

数に強くなると、いろいろ面白くて、実になることが多くなる。D、いつも⑥てきかくに判断できるようになるとか、物事を考えたとおりに動かせるようになる。そんなことを繰り返していると、とても自信がつく。そして、もつとある。人が褒めそやしてくれるのである。だから、⁽²⁾イイ気になれる。

そういう人は、脇から見ていると、⑦妙に自信あり気で、立派な感じに見える。読者のみなさんのまわりにも、必ず一人はそういう人がいるはずである。

E、そういう人を見ると、どう思うか。うらやましく思えるのである。そして、たぶん自分には^(d)そんな才

能はないし、そんな風にはなれっこないと思うのだが、ほんのチョットだけでもいいから、なれるもんならなってみたい、という気がどこかでするのである。

(畑村洋太郎『数に強くなる』 一部改変)

設問一

□内①～⑦の平仮名(ひらがな)は漢字に、漢字は平仮名(ひらがな)に書き換えなさい。

設問二

□Aには、どんな語句が入るか。次の中から最も適当と思われる語句を一つ選び、記号で答えなさい。

ア 感慨無量 イ 曖昧模糊 ウ 完全無欠 エ 無味乾燥 オ 公明正大

設問三

□B～□Eには、どんな接続詞(つなぎことば)が入るか。次の中から最も適当と思われる語句をそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。ただし、同じ選択肢は二回以上使用しないこととする。

ア つまり イ では ウ たとえば エ あるいは オ なぜなら

設問四

右に傍線部のある語句(1)「結果」と反対の意味を表す二字熟語(対義語)を書きなさい。

設問五

右に傍線部のある語句(2)「イイ気になれる(なる)」と同じ意味を表す慣用句はどれか。次の中から最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 鼻を高くする イ ねじを巻く ウ 味をしめる エ 左うちわ オ 肩を並べる

設問六

右に傍線部のある語句(a)「数をめぐる苦い体験」とは、どのようなことか。本文中から十五字以内で書き抜きなさい。

設問七

右に傍線部のある語句(b)「数は、人間が生み出した最高の抽象物」とはどういうことか。次の中から最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 数は、一見単純に見えるが、複雑な真理を秘めている、ということ。
イ 数は、人間の自由な発想力を最も発揮した発明である、ということ。
ウ 数は、実体がなく、とらえどころのない概念である、ということ。
エ 数は、非常に古くから用いられてきたものである、ということ。
オ 数は、どのような対象にも用いることができる概念である、ということ。

設問八

右に傍線部のある語句(c)について、「体が疲れるということとは違った、もっと深くたびれ方」をするのは、なぜか。次の中から最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 頭の中で仮説を立てて実行し、検証するという作業が何度も繰り返し返されるから。
イ 複雑な思考をすることによって頭に適度な負荷がかかり、脳の活性化が進むから。
ウ 頭の中を全部一度に動かして、非常にたくさんエネルギーを消費するから。
エ 数を扱うときには、子供も大人も同じ量のエネルギーを必要とするから。
オ 頭に負荷をかけることは、運動よりもずっと多くのエネルギーを消費するから。

設問九

右に傍線部のある語句(d)「そんな才能」とは、どのようなことか。本文中の語句を使って、十字以内で具体的に答えなさい。

問題二 次の文章を読んで、設問に答えよ。

*源五郎は、病院の手前で左に曲がり、細い路地に入った。それからひとつ目の角ですぐに左折。川原に沿った
① 砂利道を、ひかげ旅館へUターンである。*天藤の手前は家を出たものの、学校へ行く気は最初からなかった。

(学校へなんか行っている場合じゃない)

なるみひとりでは心配だ。手助けをしなくてはなるまい。

ひかげ旅館の裏手に出て、自分の背より少し低いくらいのコンクリートブロック塀をよじのぼる。

隣の庭で、ゴムホースを手についでいる*せみのゆの主人と視線が合った。

「せみのゆさん、おはようございます」

源五郎は塀の上から声をかけた。

「お前はいつも、挨拶だけはしっかりしとる。そこは感心だ」

せみのゆ老が頷いた。

「おかみさんの教育のたまものでござんす」

「しかし、場所も状況も間違つとる」

せみのゆ老の口調が苦々しくなった。

「そんな高い場所から頭を下げたところで、礼にも何にもなつとらんが」

源五郎は、へへへ、と笑ってみせた。

「毎日ちゃんと学校へ行け、とは教育されんかったのか」

「おかみさんといえども、決して完璧なひとではござんせん」

「ああ言えばこう言う。まったくもつてへんな教育を② ほどこしたもんだで」

せみのゆ老はくちなしの低木の根もとへ水をかけはじめた。

「A、敬語が*えらい Bと来とる」

白い花が開き出していて、甘い、それでいて刺すほどに強い香りがほのかに漂ってくる。源五郎は塀から風呂場の屋根へ上がると、物干台の錆びた鉄の柵につかまり、ひよいと乗り越えた。運動神経はよくない方だが、これぐ
③ 軽業はできる。

物干台からは、ゆるゆる流れる大きな川が見渡せた。

(おれは問題児なのだろうな)

自覚はある。学校へ行つても、給食の時間までの辛抱ができたことがない。教室で先生の話を黙ってじつと聞いているのも、運動場で走るのも、ピアノ④ ばんそうに合せて歌ったりするのも苦痛なのだ。

みんなで一緒に行動する。そのことが、吐き気を⑤ もよおすほどつらくてならない。

一年生のとき、担任だった山内麻由美先生は、とても心配してくれた。そして、保護者であるおかみさんを学校へ呼び出した。

(暴挙だったよなあ)

当日、おかみさんは、レモンイエローの⑥ きじにゴールドの豹柄という、途方もないデザインのパンツスーツを身につけたのである。

「どう思う?」

問われて、天藤は即答した。

「やはり、自分が行きます」

そんなこともあろうと思つて、入学式には天藤が代理で出席していたのだ。

C、今回は学校側との話し合

いである。源五郎という児童が抱える現実すべてを正直にさらけ出した方がいいのだと主張して、おかみさんはさっそうと学校へ出向いた。

「若いのに、行き届いた、いい先生だったわ」

帰ってきたおかみさんはにこにこと言った。

「可愛い顔をがちがちにこわばらせて、お前のことを気に病んどった」

（それはおれが理由じゃない。保護者に原因があるんだよ）

山内先生は、入学式と同じく天藤が来るものと決め込んでいたに相違ない。心の準備ができていなかったのであらう。

「ある種の人間にとつて、群れに⑦ 順応 するのは簡単なことじゃないんだで」

きつとお前もそうなんだろうと、おかみさんは言った。

「群れに馴染めん自分に慣れて、自分自身を飼い慣らしていくこと。それしかできんのだわ。だから、せいぜい山

内先生の D やるつもりで、できる範囲の辛抱をするしかない」

「……………」

「大人になれば、自由になれる。それまでの辛抱だつて」

「おかみさんみたいに？」

「そう。私みたいに、他人から嘖うらわれて生きる自由だつてある」

（おれだつて、できる範囲のことは、した）

けれど、やはり五時間目までいられることは、稀だった。山内先生も、その後はおかみさんを呼ぶことはなかった。

その後、三年四年と担任だった蜂谷先生も、今の担任の雲井先生も、源五郎のことは気にしていない。そういう子(e)なのだと、あきらめたみたいだ。

（いや、単純に、おかみさんをもう学校へは呼びたくないと考えたのかもしれないけどな）

それはそうだろう。おかみさんは見るからに、学校側としては関わり合いたくない種類の人間だった。

（いつになったら、おれは自分を飼い慣らせるんだろう？）

おかみさんに聞かせてもらったおとぎ話の主人公みたいに、学校なんか行かないで、このまま大人に混じって生きていけないものだろうか。

（いつになったら、おかみさんみたいに、無理をしないで生きられるようになるんだろう？）

（いつになったら）

（加藤元『ひかげ旅館へいらっしやい』）

（註）*源五郎 ひかげ旅館に身を寄せている小学生。

*天藤 ひかげ旅館の板前。

*せみのゆ ひかげ旅館の裏手にある銭湯。

*えらい ずいぶんと

設問一

内①～⑦の平仮名(ひらがな)は漢字に、漢字は平仮名(ひらがな)に書き換えなさい。

設問二

A、 C には、どんな接続詞(つなぎことば)が入るか。次の中から最も適当と思われる語

句をそれぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア しかも イ つまり ウ または エ だから オ しかし

設問三

B、 D には、どんな語句が入るか。次の中から最も適当と思われる語句をそれぞれ一つ

ずつ選び、記号で答えなさい。

B ア 傍若無人 イ 針小棒大 ウ 時代錯誤 エ 一知半解 オ 時期尚早

D ア 顔を立てて イ 首をすくめて ウ 肩をもつて

エ 鼻を明かして オ 肝を冷やして

設問四

右に傍線部のある語句(a)「源五郎は、へへへ、と笑ってみせた」とあるが、このときの源五郎の心情として最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア せみのゆの主人を馬鹿にすることができて、痛快に思っている。

イ せみのゆの主人の心配がはずれなことを嘲笑している。

ウ せみのゆの主人の小言を気にかけることなく、笑ってごまかしている。

エ せみのゆの主人の批判に言い返すことができず、くやしがつている。

オ せみのゆの主人に心得違いを指摘されたので、恥ずかしがつている。

設問五

右に傍線部のある語句(b)について、おかみさん自身が学校へ出向いたのは、なぜか。次の中から最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 源五郎がひかげ旅館にいたいと思つて、ひかげ旅館のおかみとして、学校側に伝えておくべきだと思つたから。

イ 源五郎の本当の親でなくても、責任をもってきちんとしつけられることができるということ、見せつけたかったから。

ウ 源五郎が、みんなで一緒に行動することをどれほどつらいと感じているのか、担任の先生から直接話を聞きたかったから。

エ 源五郎の保護者がどのような人物であるのか、学校側にも直に知つておいてもらいたいと考えたから。

オ 源五郎はすでにたくさんのお辛いことを辛抱しているのだから、これ以上無理をさせないでほしいと思つてたかったから。

設問六

右に傍線部のある語句(c)「心の準備ができていなかったのであらう」とあるが、なぜ「心の準備」が必要だったのか。本文中の語句を使って、四十字以内で答えなさい。

設問七

右に傍線部のある語句（d）「群れに馴染めん自分に慣れて、自分自身を飼い慣らしていくこと」とは、どういうことか。次の中から最も適当と思われるものを一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 音楽や体育など、苦手なものがあるのなら、その分、他に得意なことをがんばればよい、ということ。
- イ 団体行動ができないことに引け目を感じる必要はないが、できるだけがまんする、ということ。
- ウ 他人からどのように思われようとも、自分の気持ちに素直である方が子どもらしくてよい、ということ。
- エ つらい思いを抱えて学校に行くよりも、一人でも生きていく力をつける方が大事だ、ということ。
- オ 気に入らないことから逃げたり暴れたりするのではなく、なぜそう思うのか考えるべきだ、ということ。

設問八

右に傍線部のある語句（e）「そういう子」を表す語句を、本文中から三字で書き抜きなさい。

